

次の詩、北宋の蘇軾（一〇三七〜一一〇一）が朝廷を誹謗した罪で黄州（湖北省）に流されていた時期に作ったものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

寓居定惠院之東、
雜花滿山、

（原文） 寓居定惠院之東、
（現代語訳） 様々な花が山に咲き満ちており、

有二海棠一株、
土人不知貴也

（その中に）海棠（＝バラ科の木。春に濃淡のある紅色の花を咲かせる）が一株在り、
土地の人は（その海棠の）価値を理解していない。

① 江城地瘴 蕃二草木 ② 只有二名花 苦 幽独

（現代語訳） 長江に面した町である黄州は湿気が多く、草木が繁っている。
ただ名高い花で、とても奥深い所に孤独にさいている花（＝海棠）がある。

③ 嫣然一笑 竹籬間 ④ 桃李漫 山総粗俗

（その海棠は）にっこりと笑っている。竹で編んだ垣根の間で。
桃や李（すもも）が山に咲き満ちているけれども、全て（この海棠と比べたら）粗野で低俗だ。

⑤ 也知造物有 二深意 ⑥ 故 遣三佳人 在 二空谷

また（この海棠によって）知る。（天地を造った）造物主には深い意図があったのだと。
敢えて美人（＝海棠）を、ひと気が無い谷に咲かせた。

⑦ 自然富貴 出 二天姿 ⑧ 不 待 三金盤 薦 二華屋

自然の豊かな美しさは天性の姿から現れている。
金の花瓶できらびやかな宮殿に献上するまでもない。

⑨ 朱唇得 酒 暈生 ⑩ 翠袖卷 紗 紅映 肉

（海棠の花弁はまるで美人が）朱色の紅を引いた唇で酒を呑み、頬がぼんやりと赤らんでいる（ようだ）。
（海棠の葉はまるで美人が）緑色の袖の薄絹をまとい、紅色の肌映えている（ようだ）。

⑪ 林深霧暗 暁光遲 ⑫ 日暖 風輕 春睡足

林の奥深く、霧で暗い（場所に海棠は咲いている）ので、夜明けの日光は遅く差し込む。
日差しが暖かく、風が軽やかな（場所に海棠は咲いている）ので、春の眠りは満足できる。

⑬ 雨中有 涙 亦 凄慘 ⑭ 月下無 人 更 清淑

雨の中、（濡れている海棠はまるで）涙を流し、いたましい。
月の下、（海棠以外は）人がおらず、一層しとやかである。

⑮ 先生食飽 無二一事一 ⑯ 散步逍遥 自 捫レ腹

先生(＝筆者、蘇軾)は満腹になって、一つもやる事が無い。散歩して気ままに歩き、自然と腹を撫でる。

⑰ 不レ問三人家 与二僧舍一 ⑱ 拄レ杖敲レ門 看二修竹一

民家と僧房とに関係なく(全ての家屋で)杖をついて門を叩き(各家屋の人に許可をもらって)長く伸びた竹を見る。

⑲ 忽 逢三絶艶照 二衰朽一 ⑳ 嘆息無言 指二病目一

突然、絶世の艶やかな花(＝海棠)が、老衰(した筆者)を照らすのに遭遇し、ため息をついて無言で病の目をこすった(そして海棠を見つめた)。

㉑ 陋邦何 処得二此花一 ㉒ 無乃好事 移 二西蜀一

辺鄙な地方はどこからこの花を得たのだろうか。どちらかと言えば、好事家が西蜀(＝現在の四川省。海棠の原産地)から移し替えたのだろうか。

㉓ 寸根千里 不レ易 ⑳ 銜 ⑳ 子飛来 定 鴻鵠

(しかし海棠は)短い根っこ(でも)はるか遠くまで運ぶのは容易ではない。(海棠の)種子を口に含んで飛んで来たのはおそらく鴻鵠だろう。

㉕ 天涯流落 俱可レ念 ㉖ 為 飲二樽一 歌二此曲一

故郷を遠く離れた地に流れ着いた(者として私は)同じような思いを抱くことができる。あなた(＝海棠)のために、一樽の酒を飲んでこの詩を朗詠しよう。

㉗ 明朝酒醒 還独来 ㉘ 雪落 紛紛 那忍 ⑳ 触

明日の朝、酒から覚めてまた一人で(海棠のもとに)着いたら、雪が乱れ落ちる(ようになるので、)触って花びらを散らせるのに忍びない。